

令和7年度 第2回益富地域会議 会議録

日 時：令和7年5月15日（木曜日）19時00分～20時30分

場 所：益富交流館 1階 多目的ホール

出席者：太田市長

＜地域会議委員＞ 梅木 貴仁、加藤 弘一、岸和田 紀美代、木戸 彰彦、
黒田 隆、今野 貞直、櫻井 裕子、柴田 栄作、鈴木 勲、
鶴田 政勝、寺崎 謙二、橋本 卓美、古川 和彦、
森本 泰崇

【欠席】田中 強、間瀬 亮次、山内 日出美

＜高橋支所＞ 前田支所長、出口副支所長、吉野担当長

傍 聴：1名

≪内容≫

1 豊田市民の誓い唱和

2 会長あいさつ

3 提言書授受・提言内容説明

黒田会長から提言の趣旨を説明した後、豊田市長へ提言書を手渡した。その後、提言内容の詳細を黒田会長から豊田市長へ説明した。

4 市長あいさつ

太田市長からあいさつを交えて、今回の提言についての感想を述べた。（以下、抜粋）

- ・孤独や孤立については、それ自体が悪いことと世間では捉えられがちだが、自発的に孤独や孤立を選択して自身の人生を楽しんでいる方もいるので、全ての高齢者の孤立化対策をすることは難しい。しかし、裏返すと意図せずに孤独や孤立になった高齢者への対策にターゲットを絞って取り組んでいくことが必要。
- ・「共助交通の仕組みづくり」に関するカーシェアリングについては、地域で上手く仕組みをつくることが大切。

5 意見交換

今回の提言に関する内容をはじめ、地域会議委員と市長で意見交換を行った。

【主な意見】

（委員）

- ・自分は自治区長を担っており、自治区内で徘徊高齢者への対応訓練や住民が集えるカフェを行っている。今後は「終活セミナー」を企画している。しかし、高齢化に関する問題を自分事として捉えているのは私だけのように感じている。もう少し賛同してくれる人を増やさないといけないと感じている。
- ・また、高齢者夫婦だけの家が次第に空き家になったり、独居になっていく。そのような状況の中で「共助」の意識が必要となってくるので、今後は「共助」についても自治区で何かしら取り組んでいく。

（市長）

- ・地域課題については、住民の中でも捉え方に差がある。何に基準を置いて課題解決の取組を行うのか冷静に対応していかないと地域の住民はついて行かない。自分自

身にとって切実な課題なのか、区長さんの立場として切実な課題なのか、それを見分けることは難しい。あれもこれも取り組むというよりも、何か一つに的を絞って具体的に取り組んでいただくのが良いかと思う。

- ・益富地域でも喫茶コーナー（カフェ）を実施してくれている活動団体さんがある。そういう取組を無理なく継続してやっていただくことで地域のみなさんにも定着していくと思う。
- ・豊田市の人口は減少しているが、世帯数は増えている。これは、高齢者世帯が増えていることを意味しており避けられない現状。この状況を前提に、地域として何をどのように対策していくのかを冷静に考えていかないといけない。
- ・孤独・孤立対策については、「外に出かける用事」を地域で作っていただくと良いと思う。
- ・地域の中で自分の役割があり、その役割を果たすことで地域の人から感謝されて、「ありがとう」と言われることが実感できる地域社会を作り上げていくことが大切。

（委員）

- ・自分は、一時期免許を返納していたことがあり、そのときにバスを利用していたが非常に不便だった。1 時間に 1 本の運行は利用者側にとっては厳しいので、せめて 1 時間に 2 本の運行をお願いしたい。
- ・また、おいでんバスの 3 カ月パスの値段 8,000 円は少し高いので 5,000 円にしてほしい。

（委員）

- ・今の意見に関連してだがカーシェアリングが有効な取組で大切であることも分かるが、既存のものを活用することも大事かと思う。豊田市全域には、おいでんバス、名鉄バス、そして電車もあるが、もう少し便利な仕組みにしてほしい。具体的には、バスの本数を増やすことはもとより、現在のバス路線は全て豊田市駅から放射状に出ているので、バスの乗り継ぎが便利になるような停留所配置などができるとよい。

（市長）

- ・選挙の公約で高齢者のおいでんバス無料化のことについては述べた。しかし、国がネックとなっているのが現状。自治体のバスについては国が補助金を出しているが、全国どこも赤字経営の状態。その赤字を補填する意味合いの高い補助金となっている。そのような現状にもかかわらず運賃を無料にするのは国としても認めることは難しい。70 歳以上の方を含めて何か方策を打つことができないか、今議論しているところなので、もう少しお時間をいただきたい。
- ・既存のものを生かすという点については、バスは定時制が確保できないことが難点。そのため、スムーズなバスの乗り継ぎも難しい。バスの本数自体を増やすことについては財源の問題よりも、今は運転手不足が大きな課題となっている。バスの運行自体が上手くいかない状態となっており、運転手不足は相当深刻な課題となっている。

（委員）

「自助」の考えは非常に大事だと思う。自分自身の心がけさえあれば、地域の人と仲良くできるし、健康維持もできる。自分も毎日 5 キロ歩いている。

（市長）

- ・基本的には自助が大切だと思うが、自助にもいずれ限界が来る。そのときにいきなり共助の行動を取ることができるようにはならないと思う。いきなり地域社会に溶け込むのは難しく、孤独・孤立状態に陥ってしまう恐れがある。自助ができる段階で、合わせて自分自身で共助に対して取り組んでおくことが必要かと思う。
- ・また、現役世代をどうやって地域に巻き込むかが大きなポイントとなる。自治区や地域会議にも現役世代が「気軽に」顔を出せるようになればよい。
- ・旭地区の例を挙げると、中学校の総合教育の時間に中学生が自分たちで色んな地域の課題を洗い出して、自分たちでその解決策を考える取組を行った。彼らが洗い出した課題を解決するために、地域の人がわくわく事業を使って取り組んだ実績があり、今では旭地区ではわくわく事業に中学生枠がある。例で挙げた中学生たちは、獣害対策としてジビエを生かした料理（ジビエバーガー等）を考案した。プロが指導して実際に商品化してイベントで販売し、売り上げの一部を中学校に還元した実績がある。

（委員）

- ・「地域づくり振興基金」の積立金調べてみたところ、地域振興事業に 100 億円が積み立てられている。「基金」ということで運用益が出ていると思う。当該基金については、この先 10 年間で地域で使える資源にしたいと市長が言われていた。基金の運用益を地域で実際に使える目算があるかお伺いしたい。

（市長）

- ・この基金は、取り崩しが前提の基金であり、既存の事業にも使われる。2005 年の市町村合併の時に、わくわく事業や地域予算提案事業の仕組みができた。その理由は、「地方分権」に関する議論が発端だった。「国と地方の関係」をどうしていくかという議論。

税金の管理については「国が 6 割、地方が 4 割」に対して、業務の管理については「国が 4 割、地方が 6 割」と逆転している。地方は、国に対して国が税金を管理するのではなく、地方が税金を管理できるように制度を変えてほしいと言っている。結局、豊田市における、行政（市職員）と市民の関係と同じ構図になると思う。限られた人数の市職員では市民 42 万人のニーズに応えきれない。地域のことが分かるのは地域。その考えの下、地域予算提案事業の仕組みができた。自分たちが納めた税金を地域で使うには地域で判断して使っていただく、しかし、税金の使途は市民と議会も見ているので緊張感を持って使っていただくことになる。

- ・また、地域課題解決事業等、何かあれば支所に相談してほしい。自分は、支所は市役所の単なる出先機関ではなく、支所が最先端の機関だと思っている。支所こそが地域のことを良く分かっているので権限と財源を付与している。

（委員）

- ・孤立化するかしらないか、危機感を持っているのは災害のとき。どこに助ける人がいるのか、情報が分かりにくい。市に相談したら、自治区内で分かるようにしてほしいと言われた。自治区長も個人情報なので公には知らせることができないので難しい。

（市長）

- ・避難行動要支援者名簿の話だと思うが、確かに難しいと思う。できるだけ地域で共有してもらう仕組みにはしている。そもそも、同名簿には予め名簿に載せてほしいと希望する人を載せている。当然、載せてほしくない人もいたのでその扱いが難しい。「自分は構わないでほしい」という人もいるが、発災時に放っておくことはできない。能登半島の地震のときも、隣人が誰か分からないという状況があった。

(委員)

自分の友人で自治区長をしている人が、自治区内で新聞が溜まっている人がいて鍵がかかっていたので鍵を壊してお宅に入ると孤独状態で亡くなっていた。その後、故人の葬儀などを全て区長が行い、壊した鍵の修理代金も区長が負担した。区長だけで全てを担うのは大変。

(委員)

カーシェアリングをわくわく事業で実施することは可能か。

(市長)

カーシェアリングは、わくわく事業とは別の仕組みを持っているので交通政策課に相談していただきたい。

(委員)

社会福祉協議会が、身寄りのない人を支援するという記事が、先日の新聞に載っていた。具体的な内容はまだ決まっていないが、それについての利用者や予算はどのように考えているか。

(市長)

具体的な内容は把握していない。

(委員)

孤独・孤立化対策については、先日本披露目されたボードゲーム「コドクエ」を地域に普及すれば理解が深まると思う。

(市長)

「コドクエ」は、よりそい支援課の職員と民間企業で製作した。孤独・孤立の人が様々な団体や地域と関係を築いて孤独や孤立を解消するという分かりやすい内容なので取り掛かりやすいと思う。

6 市議あいさつ

会議を傍聴した吉野 英国議員、水野 博文議員、山本 義勝議員があいさつした。

7 事務連絡

事務局から次回の開催について連絡した。

令和7年度 第3回益富地域会議

- ・日 時：令和7年6月18日（水曜日）19時～
- ・場 所：益富交流館 多目的ホール

以上